

## 京都府の医療的ケアを支えた人たち

京都府立特別支援学校長会  
医療的ケア担当校長 山田 定宏  
(京都府立向日が丘支援学校長)

### はじめに

京都府立特別支援学校の医療的ケアの実施体制、各校における教職員の力量の高さ等は全国に誇れるものであると考えています。このような現在の京都府立特別支援学校における医療的ケアは、学校現場のみで作上げてきたものではなく、多くの方々の献身的な努力や支援がその背景にはあったことを忘れてはならないと思います。また、このような学校以外の多くの方々の献身的な努力や支援は、現在及び将来にわたっても引き継がれていくものであり、京都府立特別支援学校の医療的ケアの質の維持・向上にとってなくてはならないものと考えています。

### 1 医師

医療的ケアにとって医師は必要不可欠な存在です。医療的ケアを必要とする子どもたちの多くは、いわゆる重度重複障害児（重症心身障害児）です。重度重複障害児の身体生理や病理は、通常の小児医療とは異なる臨床像を示します。そのため、医療的ケアの実施にあたっては重症児医療専門医の立場から指導・助言していただける医師の存在は極めて大きいものです。

京都府においては、独立行政法人国立病院機構南京都病院の現院長である宮野前 健先生や、京都教育大学教授であり済生会京都府病院の医師である郷間 英世先生が、京都府立特別支援学校における医療的ケアの黎明期から、重症児医療の専門医としての立場から、教員の研修会講師、教員、看護師、養護教諭等の相談・助言や府教育委員会の医療的ケアにおける諸会議委員等に関して献身的に御尽力いただきました。また大阪府立母子保健総合医療センターの川原 央好先生、京都府立舞鶴こども療育センターの四方 あかね先生など多くの先生方にもお世話になりました。このような医師の先生方の献身的な御尽力なくして今日の京都府の医療的ケアはあり得なかったと考えています。

### 2 看護師

学校という場で看護師としての資格・専門性のもとで仕事をするということは、看護師にとって未知の世界での仕事であったと想像できます。そのような中で、重症児のためという熱い思いで学校という場で看護師として仕事をすることを決心し来ていただいた看護師さんの存在は大変大きなものでした。また、看護師が増え、看護師研修の必要性が生じ、看護師スキルアップ研修を実施することになった時、惜しみない協力をさせていただい

た京都府看護協会の方々の存在も大きなものでした。京都府看護協会の方々は将来にわたっても心強い援助者です。

### 3 教育委員会

平成 16 年 10 月に厚生労働省医政局長通知が出され、医療的ケアに関する法的な整理がされるまでの 10 年にもわたる間、医療的ケアに関する様々な情報は主に東京で休日に開催される各種研究会や研修会でした。そのような研究会等に特別支援教育課の歴代の指導主事は積極的に参加し、最新の情報の入手に努め、京都府における医療的ケアのありかたについて検討を進めていました。また、学校現場とも情報の共有に努め体制整備に力を注ぎました。そのような教育委員会事務局の継続した取組がなされてきたことにより、医政局長通知が出された後の実施要項の策定、体制充実事業の実施は学校のニーズに応じた内容であり、対応は迅速なものでした。遠足、修学旅行等の校外学習時の看護師後補充事業は現在でも他府県から羨まれる先進性の高い事業です。

### 4 教員

京都府の医療的ケアの特徴は、教員が研修、ヒヤリハット等の取組に当初から献身的にかかわってきたことです。各校の医療的ケア担当者が研修会チーム、ヒヤリハットチーム等の組織を構成し、教育委員会事務局と連携し各種の企画から準備、実施等に責任感を持って取り組んできました。構成メンバーの入れ替わりがあっても、この献身的に運営に関わるという姿勢は、脈々と受け継がれています。

### 5 保護者

医療的ケアは家庭で日常的にケアを実施しておられる保護者抜きには考えられません。全国で初めて医療的ケアの「教育的意義」という視点を提起されたのは兵庫県加古川市立加古川養護学校の保護者でした。京都府の医療的ケアにおいても保護者の方には大きな役割を果たしていただきました。京都府全体の会議である医療的ケア運営会議の保護者委員として当初から参加していただいた木下貴子氏には毎回の会議で、保護者の視点から貴重な御意見を出していただきました。(木下委員のお子さんは、24 時間人工呼吸器を使用)

このように、今日の京都府の医療的ケアは、多くの関係者の方々の「医療的ケアを必要とする子どもたちのためにできるだけことをしよう」という思いが結集した結果としてあることを忘れてはならないと改めて思っています。